

28 プライバシー・安全・効率性を備えた閉鎖式導尿バッグカバーの工夫

看護部 4階病棟 鈴木豊子 谷脇路子 多田由美子

はじめに

膀胱内留置カテーテルを使用している頸髄損傷患者は、プライバシー保護のためにビニール製の閉鎖式導尿バックカバー（以下カバーと略す）を使用している。しかし、カバーがビニール製のため破れやすく、また車椅子に固定しにくいなどの問題点があげられた。そこで、プライバシーの保護、安全性、介護者が効率的に管理できるカバーを作製したいと考えた。

I. 研究目的

膀胱内留置カテーテルを使用している頸髄損傷者のカバーを作製し、プライバシーの保護、安全性、効率性の点から評価する。

II. 対象と方法

排尿管理に介助が必要で車椅子乗車をする頸髄損傷患者を対象とした。第1案カバー（図1, 2）（図3, 4）を平成19年10月20日から11月5日まで3名の患者に使用した。カバー使用後に、患者、看護師、訓練士、看護助手23名に自記式アンケートを実施した。

III. 結果

プライバシーの保護に関しては、カバーが外れて尿バッグの中の尿が人目にさらされる場面があった。安全性に関しては、管が引っ張られたり折れ曲がること、患者が活動時に尿バッグが落下することはなかった。効率性に関しては全員が「尿の観察がしやすい。」と答えた。以上の意見から第2案カバーの条件を考え作製した。プライバシーの保護に関しては17名が「カバーが外れて尿が人目にさらされることはなかった。」と答えた。安全性、効率性に関しては、第1案と同様であった。

IV. 考察

1. プライバシーの保護：カバーを使用することにより尿バッグの中の尿が直接人の目に触れない為、患者は羞恥心や不快を感じることはない。プライバシーが保護されることで、患者の活動範囲が広がり積極的な社会参加へとつながっていくと考える。
2. 安全：カバーを使用することにより、管の屈曲と閉塞、尿バックの落下を起こさず安全が保てたと考える。
3. 効率性：第2案カバーを使用することで、介護者が尿の観察をしやすく、尿が捨てやすくなった。

V. まとめ

1. カバーを使用することにより、プライバシーが守られる。
2. カバーの下部を一部縫うことで袋状となり、車椅子乗車時に固定場所から落下しない。より安全性が保たれる。
3. 尿の観察、尿捨てが容易になり効率性が向上した。

VI. 課題

尿重量、経済面、感染面の課題が残った。



図 1 第 1 案カバー（車椅子使用时）



図 2 第 1 案カバー（ベッド使用时）



図 3 第 2 案カバー（車椅子使用时）



図 4 第 2 案カバー（ベッド使用时）